

第八講 シュメール人の国家社会論（1）

シュメール国家・社会のモデル

1. マルクス

国王国土総有説←『旧約』「創世記」47. 19-22.

ヨセフ・ファラオによるエジプトの農地購入

私有地の欠如

アジア的共同体所有

大家族

不変

2. ウェーバー

封建的關係（王の兵士）

小家族

私有地

3. 神殿国家論

P. A. ダイメル、A. シュナイダー

教皇庁所蔵のタブレットを研究

ラガシュの神殿領中心に研究

ラガシュの都市領を 2~300 平方キロと見積もる

（実際には 1572 平方キロ）

神殿共同体：マルク共同体と見、定期的土地の割替えを伴う。

土地私有は存在せず。

神殿領：都市領と同じ。

神殿所属員：都市住民と同じ。

神殿国家の変質と解体：

初期王朝第 3 期末・・・王による神殿領篡奪

ウル第三王朝・・・私有地と賃金労働者の発生

イシン・ラルサ時代・・・神殿経営体の解体

4. 原始民主政論

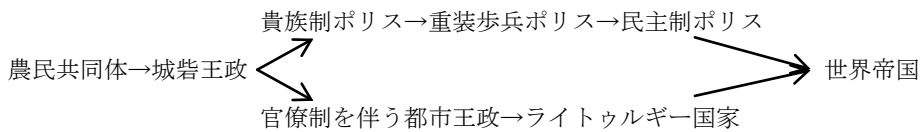
Th. ジェイコブセン

ディアラ川流域を考古調査

英雄時代論と対応：『ギルガメシュ神話』

ギルガメシュ・ウルクの民会

マックス・ウェーバーの古代国家の発展モデルの応用



初期王朝第1期・・・ケンギル同盟（一種のシュメール連邦）

原始民主政：民会

臨時の指導者 en・・・内政面

lúgal・・・軍事面

各都市の指導者 ensí

初期王朝第2～3期

原始王政：危機の恒常化

臨時の役職の恒久化

en 権と lúgal 権の結合

王の神格化

初期王朝第3期末

ケンギル同盟の解体→領域国家の形成

ensí（都市の指導者）が lúgal を名乗る

都市間の覇権争奪

アッカド帝国期

原始帝国・・・カリスマ性に依拠

ウル第3王朝期

官僚制的民族国家

帝国を放棄